

投稿者は本文を  
読売新聞社に送付  
した模様です。

## ■竹島（独島）明記は遅いくらいだ」の社説に抗議する。

不肖

曾ては、日本人として教育され、一命を天皇陛下に捧げ、忠誠を尽くすと、誓った事のある人間です。教育は人間をそのように、作りかえるものである。

社説で竹島(独島)は歴史的にも国際法上も日本の国固有領土であることを今回学習指導解説書に記載されたのは遅すぎたくらい遅くとも江戸初期の17世紀半ば以降、日本が領有権を確立し1905年閣議決定を経て、島根県に編入された。だから竹島(独島)は日本の固有の領土であると、声高らかに社説で主張し報道している。

歴史を偽造、歪曲し、いくら立派な国に見えるようにしてもそのような国民は所詮メッキされた、ジュエリーでしかない。新聞の使命は真実を伝える事であって、歪曲された歴史、国策を後ろ押しの道具であってはならない。貴社は独島(竹島)の領有権を如何に検証しての社説なのか、遅くとも江戸初期17世紀なかば日本が領有権を確立したと、理不尽な主張をするならば、韓国の鬱陵島までも、日本の固有の領土とすべきではないのか、それを述べないのも、それも外交上の配慮からか問いたい。

両国間の独島(竹島)の領有権問題が大きく報道され論争になったのは、戦後、予備会談に於いて、36年間の植民地政策の反省は疎か、正当であった如き日本の主張に業を煮やし憤慨した李承晩大統領は、マッカーサーラインに代わる平和ライン(日本は李承晩ライン)を設定、平和ラインを侵犯した日本の漁船を悉く拿捕、処罰した。それに対し日本政府は平和ライン実施10日後の1952年12月28日、平和ラインは認めないと、抗議してきたのが独島(竹島)を巡る領有権紛争の始まりであると記憶する。尚、戦後国連に於いては国際間に境界のない水産資源、地下資源等が論題として浮上するや、立法化の気配を感じた日本は、韓国の東海を日本海と称号する程、帝国、国粹主義、思考の日本にとっては韓国が東海と称する海洋を日本海と称している日本海に在る独島(竹島)は当然の如く我が物を考えても不思議なことは無いかも知れない、新国粹主義の台等の始まりである。教科書問題もその頃からである。貴社の言う歴史上での独島(竹島)領有権は江戸時代初期の半ば云々と述べるが史実はその以前、既に豊臣秀吉によって、朝鮮全土が侵略され鬱陵島まで侵犯されている、当時、朝鮮人6万人の拉致、5万人以上の耳と鼻をそぎ切り、秀吉に献上(京都耳塚)その当時、既に日本人は鬱陵島まで浸出していたのである。当時、千利休は秀吉の朝鮮侵略に反対したが、為に割腹自殺させられたのが真相で、日本の歴史教科書には大徳寺山門に自像を安置した罪とは、真っ赤な嘘を教えている。秀吉の死後、徳川幕府から明治維新までの間、史上稀に見る韓日友好関係が続いた。

歴史を紐解き想いを馳せる時、教育が如何に大事であるかである。通信史が往来する密月の時代、善隣友好に尽くした、雨森房州と国粹的思想の新井白石、二人は朱子学（儒学）を通じ30年来の肝胆相照らす親交の間であったが、韓国に対する、考えの違いから、絶縁関係となった。その後、新井白石の反韓国の国粹主義的、思想の教育が吉田樟蔭へと受け継がれ、吉田の松下塾で教育（八紘一宇）を受けた多くの人士が育ち（伊藤博文ら）が明治維新を実現した。基本的に国粹主義者の集団の政治的行動は必然的に帝国主義、領土拡張へと展開した。明治維新以前から征韓論はあった。軍備を備え日本は矛先を韓国に向け、明治政府が出来て8年目には軍艦雲揚号で韓国の江華島を砲撃威嚇し逆に不法砲撃を受けたと、永宗島を攻撃し、翌年の2月26日（韓日併合の34年前）江華島条約を押し付け、当時、日本が欧米各国と結んでいた不平等条約を逆さまに日本の輸出入品の無関税を韓国に認めさせた、豊臣秀吉以来の再度の新略の始まりである、昔の独島（竹島）は人も住めない島と言うよりは唯の岩礁でしか無かった、然るに日本は帝国主義の本性である八紘一宇の野望実現の為、ロシアとの戦略上で独島（竹島）が絶対に必要であった、日露戦争を始めた、2週間後の明治37年2月23日、（韓日併合6年前）日本軍は武力でソウルを制圧し日本軍は韓国皇室の安寧と韓国領土保全をするとのことで、日本軍の軍略上必要な地点を収用できる、内容の韓日議定書を強引に調印させたのは、当時日本は鬱陵島、独島（竹島）は韓国領との認識からであり東海（日本海）のロシア艦隊、監視の為に鬱陵島と独島（竹島）に監視所を設置する為であった。1849年フランス探検船が東海（日本海）を航海中、海図にない独島（岩礁）を発見、船名のリアンクル号からリアンクル岩礁と名付けた、当時、フランスは帝国主義、領土拡張の最中で有りながらも自国の領土しなかった、それは明らかに鬱陵島に繋がる岩礁であるからである。それは日本は主の無い島として日本の領土だと、閣議決定の理由にしている。歴史を調べると韓国の国の総ては、日本の閣議で意のままに決定された。日本政府の思考は今日も本質的にかわっていない、それは国民の世論を左右する読売新聞の社説までが旗振り役をし国策を後ろ押しするに他ならない。独島（竹島）固有の領有権を、冷静に検証して見る。地理的条件で見ると、東海（日本海）のほぼ中央に位置し、東西二つの岩山で、総面積187,544Kmである、韓国固有の領土の鬱陵島から独島（竹島）まで87.4Km（肉眼で見える）

日本固有の領土隠岐の島から独島（竹島）まで157.5Km（望遠鏡でも見えない）

お互いに明白な自国の領土からの距離を見ても帰属の論議を待つまでもないことである。

歴史的に、貴社説の17世紀半ば以前、云々言う以前、既に千数百年前の三国時代、512年に新羅が干山国を収めた、史記が存在している以上、歴史上の所有権、論争も、又ナンセンスである。

戦後日本に消え掛けた、帝国主義（八紘一宇）が再び燃え始めたのは、平和ライン（李承晩ライン）を機会に、反韓国世論を煽り、国民の世論を正論化し、竹島の日を制定するなど、あらゆる某作を弄し、尚、国連で決議された、国際排他的経済水域200海里の利害も野望に拍車を掛けた。国民に教える教育に、このように偽装された歴史を教えることは、先祖が過去、八紘一宇の夢半ばに涙を飲み、カイロ宣言、ポツダム宣言を受諾した、屈辱の恨みを晴らし八紘一宇の夢を実現してくれとの、永久に消せない遺言状に外ならない。

その遺言状が如き教育が存在する限り、永久に韓日間の真の有効は有り得ない。

中塚 明先生の著書“歴史の偽造をただす”を一読されたい。韓日間にあって独島（竹島）領有権を論じる事は百害あって一利無いことである。

08. 7.31 米国、竹島標記「韓国領」に、の貴社の、紙面の見出しは当然の帰結である。

韓日間の真実の歴史を知った今、この老体、独島（竹島）に葬られたい心境である。

新聞の公器は真実を伝えるべきである、上記の如く抗議する。

2008年8月1日

上 大阪在住の在日韓国人

読売新聞社 殿、